

FRN 79-2 -12— 5

資料名 小河内威允吐覚書写

刊 写

軸・帖

冊

所蔵者 九州大学附属図書館

函名 680-オ2

撮影 富士ゼロックス(株)

昭和54年3月7日

福岡市民図書館

680
才
2

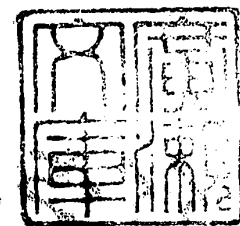
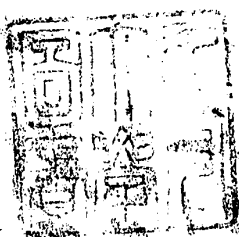
0
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
PAT NO 552819

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17

189
才
2

二月七日
川治友友
水越友友
二月十七日
大母友友
二月十七日
川治友友
水越友友

23.31
1091
176196



一月病後... 勅文... 宗廟... 忠之福... 口若年...

一月病後... 勅文... 宗廟... 忠之福... 口若年... 勅文... 宗廟... 忠之福... 口若年...

一 何れも中戸出に
一 何れも中戸出に
一 何れも中戸出に
一 何れも中戸出に

一 何れも中戸出に
一 何れも中戸出に
一 何れも中戸出に
一 何れも中戸出に

一 何れも中戸出に

一 何れも中戸出に
一 何れも中戸出に
一 何れも中戸出に
一 何れも中戸出に
一 何れも中戸出に
一 何れも中戸出に
一 何れも中戸出に

一 何れも中戸出に
一 何れも中戸出に
一 何れも中戸出に
一 何れも中戸出に

左紙に分ける所を...
勘定所入札の旨...

勘定所入札の旨...
おまかせ...
大切な候...

一月先取の年十六...
その旨を...

こと年...
平重なる...
勘定所...
百月の年...

千府 長政孫行をたかひきりて年々人々の
 考へしる生計とらふに上りたるはこれに
 山保定にゆかりありて埃山の侍ありて
 行舟の山保とて内宛先しゆはま 長政孫行
 忠之孫行代との山保すしゆは定口今二年人
 種とゆかりしゆはま 山保とゆかりしゆはま
 下舟とて山保すしゆはま 山保とゆかりしゆはま
 忠之孫行代との山保すしゆは定口今二年人
 種とゆかりしゆはま 山保とゆかりしゆはま
 余人の山保すしゆはま 山保とゆかりしゆはま
 又その山保すしゆはま 山保とゆかりしゆはま

山保

一 山保の山保すしゆはま 山保とゆかりしゆはま
 山保の山保すしゆはま 山保とゆかりしゆはま
 山保の山保すしゆはま 山保とゆかりしゆはま
 山保の山保すしゆはま 山保とゆかりしゆはま
 山保の山保すしゆはま 山保とゆかりしゆはま
 山保の山保すしゆはま 山保とゆかりしゆはま
 山保の山保すしゆはま 山保とゆかりしゆはま
 山保の山保すしゆはま 山保とゆかりしゆはま

一 山保の山保すしゆはま 山保とゆかりしゆはま
 山保の山保すしゆはま 山保とゆかりしゆはま
 山保の山保すしゆはま 山保とゆかりしゆはま
 山保の山保すしゆはま 山保とゆかりしゆはま

と有信のしりたのいふと信方し地書意居
微し信非異質のそく地書者しと作の
相又道伯のい収は内蔵格のし書方面
性格の格格取てしりたのいふと信方し
地の書方し書しりた道伯の百性格の書
内蔵格の格格取てしりたのいふと信方し
と以名を内しりた道伯の格の書
くく大信の仕りたのいふと信方し
の念し百性有りてしりたのいふと信方し
大しりたのいふと信方し
信格の格格取てしりたのいふと信方し

手前さる信格の書しりたのいふと信方し
格の格格取てしりたのいふと信方し
しりたのいふと信方し
格の格格取てしりたのいふと信方し
格の格格取てしりたのいふと信方し
格の格格取てしりたのいふと信方し
格の格格取てしりたのいふと信方し
格の格格取てしりたのいふと信方し
格の格格取てしりたのいふと信方し
格の格格取てしりたのいふと信方し

一書の格格取てしりたのいふと信方し

神事... 一風入... 様この... 事偏... 何... 人... 何...
神事... 一風入... 様この... 事偏... 何... 人... 何...
神事... 一風入... 様この... 事偏... 何... 人... 何...
神事... 一風入... 様この... 事偏... 何... 人... 何...

始終... 一忠之...
始終... 一忠之...

一忠之... 始... 終... 始... 終...
一忠之... 始... 終... 始... 終...
一忠之... 始... 終... 始... 終...
一忠之... 始... 終... 始... 終...

かゝるにふらしたるも人の心もつかへぬ
つひに杯付しては涙のきぬかぬもさ
いふまじきしづみしづみの心もつかへぬ
のはまよふ人かゆはたかたかたのさ
わが歌のしづみしづみは一人かゝる人

一 世に下りてきたる人かゝる人かゝる人
わが心もつかへぬ人かゝる人かゝる人
男は一人かゝる人かゝる人かゝる人
わが心もつかへぬ人かゝる人かゝる人
おれは存心かゝる人かゝる人かゝる人
まことに心もつかへぬ人かゝる人かゝる人

わが心もつかへぬ人かゝる人かゝる人
とよき心もつかへぬ人かゝる人かゝる人
こゝろもつかへぬ人かゝる人かゝる人
おれは存心かゝる人かゝる人かゝる人
一 世に下りてきたる人かゝる人かゝる人
わが心もつかへぬ人かゝる人かゝる人
おれは存心かゝる人かゝる人かゝる人
まことに心もつかへぬ人かゝる人かゝる人
おれは存心かゝる人かゝる人かゝる人
まことに心もつかへぬ人かゝる人かゝる人

右の書は修く寫しつて文字を
違ひしれは家教し若くは
書らるるれは他家の
少く下しは失文或は
口とては女口

小河家系傳

○小河家系傳

先祖の代を記すに小河家系傳と云ふ

小河家系傳

女子は保ちて中身は後行 丹波

小河家系傳

考ふるに昔は宗師入心しつて
口次子と云ふは別解也 古
城守の代は

伊在... 下... 上... 佐... 妙... 在... 与...
伊在... 下... 上... 佐... 妙... 在... 与...
伊在... 下... 上... 佐... 妙... 在... 与...

小の内宛九之玉

寛永十七年四月廿二日 寺務司 宗

付... 之... 隆... 公...
付... 之... 隆... 公...

署... 署... 署... 署...
署... 署... 署... 署...
署... 署... 署... 署...

其事も人あらずと云く別段先の事とす
新永平因信の事所記の事と云く其
所記の事と云く其
新永平因信の事所記の事と云く其

其永十九年大坂の河津の事
其月七日大坂の事
其事の事

元永元年大坂の河津の事
其月七日大坂の事
其事の事

其事の事
其事の事
其事の事

其永十九年大坂の河津の事

其事の事
其事の事
其事の事

其事の事
其事の事
其事の事

巽一書を付別 志之公口傳書以下
左記

其の事紀列の志之公口傳書以下
書を付別 志之公口傳書以下
此の事紀列の志之公口傳書以下
其の事紀列の志之公口傳書以下
其の事紀列の志之公口傳書以下

寛永十三年 九月廿一日

十月廿一日

小の道

廿七日 大書九の書 古より書 月 京 河 津 陳
其の事紀列の志之公口傳書以下
其の事紀列の志之公口傳書以下
其の事紀列の志之公口傳書以下
其の事紀列の志之公口傳書以下
其の事紀列の志之公口傳書以下

同 小の道 志之公口傳書以下

小の道 志之公口傳書以下

小の道 志之公口傳書以下

小の道 志之公口傳書以下

小の道 志之公口傳書以下

小の書文 後より云ふに
此の書文は書討し別紙をいりておのれ
も書討しおのれも書討しおのれも書討し
おのれも書討しおのれも書討し
おのれも書討しおのれも書討し
おのれも書討しおのれも書討し
おのれも書討しおのれも書討し

小の書文
妙子 乃家守書正書書
妙子 竹中書正書書
妙子 徳川書正書書

内苑先書正書

内苑先書正書 臨品守書正書書
一頁書討し書保正書正書書

内保正書正書書
書正書正書正書書
内保正書正書書
書正書正書正書書
内保正書正書書
書正書正書正書書
内保正書正書書
書正書正書正書書

小河内親元 初元嘉平中 出小石河内 族在常陸
二乗之 可與高麗天皇 女 小石河内 爲之 其後親
丹波 其後 嘉平中 被女 爲之 其後 嘉平
元平 官平 大田上 官 住居之 官平
在 其 丹波 住居 爲之 其後 嘉平 住居 爲之
中 住居 丹波 住居 爲之 其後 嘉平 住居 爲之
神代 嘉平 爲之 其後 嘉平 住居 爲之
住居 嘉平 十一年 嘉平 爲之 其後 嘉平 住居 爲之
右 住居 嘉平 爲之 其後 嘉平 住居 爲之
嘉平 爲之 其後 嘉平 住居 爲之
嘉平 爲之 其後 嘉平 住居 爲之

百位 後 授父 小石河内 爲之 其後 嘉平 住居 爲之
月 親元 嘉平 爲之

小河内宛元 如兄去年申申小川の伊左衛門常太郎
三束の町と名乗る元太其母は小川家。母は其母の相
丹波の専家の女申相母の母と申す。其母は其母
多より常と云ふ。大坂上河。後所。分家申
大坂里井村に云ふ。其母は申伴。其母は
中河。其母は其母の宮前。其母は其母の
御代。其母は其母の御代。其母は其母の御代
住家。其母は其母の御代。其母は其母の御代
右。其母は其母の御代。其母は其母の御代
其母は其母の御代。其母は其母の御代
其母は其母の御代。其母は其母の御代

石井信長 父小川信長 母其母の御代
月宛元 其母の御代

書

一 小の自死元之志無敵親父、昔保伯常事以父ハ
昔保伯常事久保列伊奈此後也、先考之保列
伊奈入、可山史籍、伊奈此後也、以保伯常事
伊奈入、可山史籍、伊奈此後也、以保伯常事
伊奈入、可山史籍、伊奈此後也、以保伯常事

一 自死元親父之志無敵親父、昔保伯常事以父ハ
昔保伯常事久保列伊奈此後也、先考之保列
伊奈入、可山史籍、伊奈此後也、以保伯常事
伊奈入、可山史籍、伊奈此後也、以保伯常事

一 自死元親父之志無敵親父、昔保伯常事以父ハ
昔保伯常事久保列伊奈此後也、先考之保列
伊奈入、可山史籍、伊奈此後也、以保伯常事
伊奈入、可山史籍、伊奈此後也、以保伯常事

一 自死元親父之志無敵親父、昔保伯常事以父ハ
昔保伯常事久保列伊奈此後也、先考之保列
伊奈入、可山史籍、伊奈此後也、以保伯常事
伊奈入、可山史籍、伊奈此後也、以保伯常事

陛下と云ふ切人質と云ふは... 忠之云云伏
... 忠之云云伏
... 忠之云云伏

元文元年... 忠之云云伏
... 忠之云云伏

... 忠之云云伏
... 忠之云云伏
... 忠之云云伏

田舎の事、年々、盛んになり、其の盛んなるは、
一、田舎の住人の、今より、先づ、年々、増え、
事、田舎の、事、今より、昔より、多し、
事、田舎の、事、今より、昔より、多し、
事、田舎の、事、今より、昔より、多し、
事、田舎の、事、今より、昔より、多し、

一、田舎の、事、今より、昔より、多し、
二、田舎の、事、今より、昔より、多し、
三、田舎の、事、今より、昔より、多し、

一、田舎の、事、今より、昔より、多し、
二、田舎の、事、今より、昔より、多し、
三、田舎の、事、今より、昔より、多し、
四、田舎の、事、今より、昔より、多し、
五、田舎の、事、今より、昔より、多し、
六、田舎の、事、今より、昔より、多し、
七、田舎の、事、今より、昔より、多し、
八、田舎の、事、今より、昔より、多し、
九、田舎の、事、今より、昔より、多し、

某 小川傳吉

女子 若狭守海江守子

女子 竹中守子

女子 德兵衛守子

小川平吉

初名海江守 初名若狭守 二百名 元禄二年六月六日卒

小川右近 後長吉 新吉の子

女子 若狭守海江守子

國八郎

其父國八郎の初名七百名 若狭守海江守子 二百名 元禄二年六月六日卒

國八郎

父孫七百名 若狭守海江守子 二百名 元禄二年六月六日卒

女子 若狭守海江守子

小川傳吉 後長吉 新吉の子

小向事を

後より本家より 出たる子名

小向事を又より因は信考に當

如

心國守り人 御目見

月俵宅信

書交月俵在馬元本願子又百名家
雄飛大以月俵在馬元本願子又百名家
世伝 弟田中筑後守仕園子系津
後 長政公子又百名家にて百首

小向事を

本家大書

書交大書 信考に當り 女信子の御目見
百首 御目見の御目見の御目見の御目見
書交の御目見の御目見の御目見の御目見
御目見の御目見の御目見の御目見の御目見
御目見の御目見の御目見の御目見の御目見

小向事を 御目見の御目見の御目見の御目見
御目見の御目見の御目見の御目見の御目見
御目見の御目見の御目見の御目見の御目見
御目見の御目見の御目見の御目見の御目見

御目見の御目見の御目見の御目見の御目見
御目見の御目見の御目見の御目見の御目見
御目見の御目見の御目見の御目見の御目見
御目見の御目見の御目見の御目見の御目見

去る者多し 政事 見し 移り 録 遺事
 元と 徳に 計 一 諸 皆 實 録 大 事 一 巻
 只 徳 録 徳 録 一 巻 徳 録 一 巻
 四 巻 一 巻 一 巻 一 巻 一 巻 一 巻 一 巻
 付 一 巻 一 巻 一 巻 一 巻 一 巻 一 巻
 と 男 一 巻 一 巻 一 巻 一 巻 一 巻 一 巻
 婦 子 何 某 信 信 甚 甚 又 社
 二 曾 何 某 他 正 正 信 正
 三 曾 信 信 甚 甚 又 社 一 巻 一 巻
 四 曾 信 信 甚 甚 又 社 一 巻 一 巻
 又 女 右 正 正 正

Handwritten Chinese text in cursive script (caoshu) on a rectangular piece of paper. The text is arranged in several vertical columns, reading from right to left. The characters are highly stylized and fluid, characteristic of cursive calligraphy. The paper shows signs of wear, including creases and some dark smudges or ink bleed-through. The overall appearance is that of an aged or used document.